CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 2.8 for Windows
ユーザーズガイド
(AP パッケージ運用管理機能)

© 2023(Apr) NEC Corporation

- 本機能の概要について
- 導入手順について
- 設定ファイルについて
- メッセージ
- 障害解析情報の採取
- 注意・制限事項
- リファレンス

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2015.03	新規作成
2.0	2016.03	バージョンアップに伴い改版
3.0	2017.04	バージョンアップに伴い改版
4.0	2018.04	バージョンアップに伴い改版
5.0	2018.06	商標の記載の修正
6.0	2019.04	バージョンアップに伴い改版
7.0	2020.04	バージョンアップに伴い改版
8.0	2021.04	バージョンアップに伴い改版
9.0	2022.04	バージョンアップに伴い改版
10.0	2023.04	バージョンアップに伴い改版

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC ProcessSaver for 2.8 Windows (以後 ProcessSaver と記載します) の AP パッケージ運用管理機能について記載したものです。

（1） 概要

本機能は、以後 ProcessSaver の拡張機能として提供されます。

本機能により、これまで個別に実施する必要のあった Pcheck コマンド(*1)で監視する APパッケージ(*2)の起動と Pcheck コマンドによる監視、Padmin コマンド(*3)による監視の終了と APパッケージの停止、および Pcheck コマンドの再起動と APパッケージの再起動を一元的に実施することができます。

(*1) ProcessSaver のプロセス監視コマンドです。
詳しくは、『CLUSTERPRO MC ProcessSaver for Windows ユーザーズガイド』を参照してください。

(*2) 1つの pfile 内に指定された、プロセスグループの集合。

(*3) ProcessSaver のプロセス監視運用管理コマンドです。
詳しくは、『CLUSTERPRO MC ProcessSaver for Windows ユーザーズガイド』を参照してください。

注意

本機能は、ProcessSaver がインストールされた状態でのみ使用可能です。
そのため、本マニュアルは ProcessSaver の機能、動作を理解していることを前提として記載しております。あらかじめご了承ください。
また、ProcessSaver の基本機能につきましては、『CLUSTERPRO MC ProcessSaver for Windows ユーザーズガイド』を参照してください。

（2） 商標および登録商標

- ✓ その他記載の製品名および会社名は、すべて各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目 次

1 本機能の概要について 1
1.1 本機能の提供する主な機能について 1
2 導入手順について 2
2.1 APパッケージ制御ファイルの作成 2
2.2 コマンドの実行 2
3 設定ファイルについて 4
3.1 APパッケージ制御ファイルについて 4
4 メッセージ 8
4.1 イベントログメッセージ 8
4.2 コンソールメッセージ 9
5 障害解析情報の採取 12
5.1 本機能の障害解析情報 12
6 注意・制限事項 13
7 リファレンス 14

1　本機能の概要について

1.1 本機能の提供する主な機能について

本機能(以下 appcコマンド)は、以下の操作を一括制御するコマンドです。

- Pcheck コマンドで監視する APパッケージの起動と Pcheck コマンドによる監視の起動
- Padmin コマンドによる監視の終了と APパッケージの停止
- Padminコマンドによる、APパッケージのプロセス情報再読み込みと監視の再開

appc コマンドにより、これまで個別に実施する必要のあった上記操作を一元的に
実施することができます。

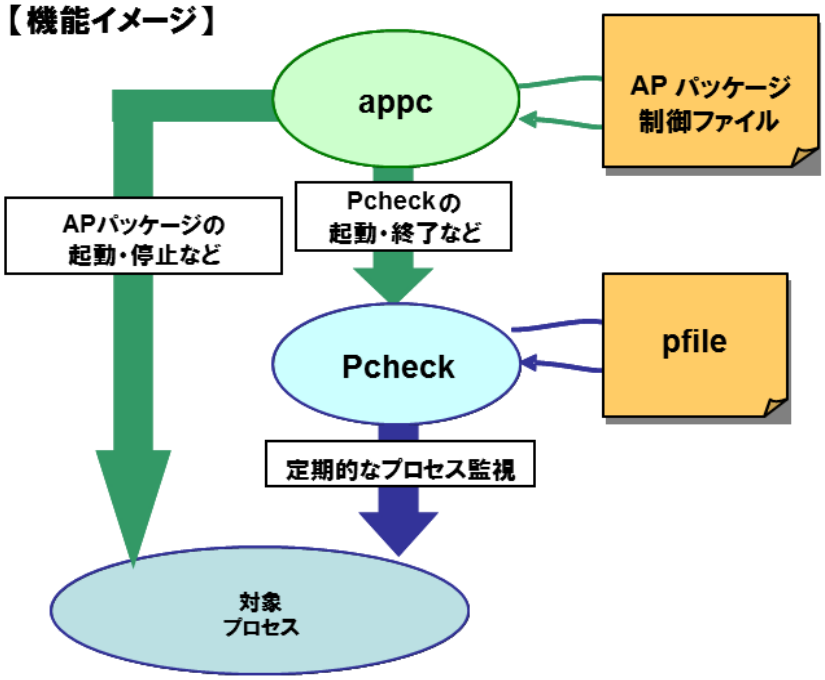
(1)基本機能

・APパッケージと Pcheck コマンドによる監視の一括制御

appc コマンドから、以下の操作を一括制御することができます。
これにより、操作の利便性が向上し、操作ミスを防ぐことで、より安全なシステム運用が
可能となります。

- Pcheck コマンドで監視する APパッケージの起動とPcheck コマンドによる
  監視の起動
- Padmin コマンドによる監視の終了とAPパッケージの停止
- Padminコマンドによる、APパッケージのプロセス情報再読み込みと監視の再開

【機能イメージ】



2 導入手順について

appc コマンドを導入する場合、下記の手順が必要です。

2.1 AP パッケージ制御ファイルの作成

（1）AP パッケージ制御ファイルの作成

AP パッケージ制御ファイルを作成してください。
AP パッケージ制御ファイルのサンプルファイルが下記ディレクトリに格納されて
いますので、必ず別名でコピーしてからカスタマイズしてください。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥conf¥pspkgconfig_sample
また、コピーする際、作成する AP パッケージ制御ファイル名は以下の形式にしてください。
pspkg_<任意の文字列>.conf
AP パッケージ制御ファイルの詳細については、本マニュアルの
「3.1 AP パッケージ制御ファイルについて」を参照してください。

（2）AP パッケージ起動・停止スクリプトの作成

制御する AP パッケージを起動・停止するスクリプトをそれぞれ作成し、実行権を付けて
保存します。
このとき、作成するスクリプト名には拡張子 ".bat" をつけてください。また、スクリプト名はそれぞれ以下の形式を推奨します。
AP パッケージ起動スクリプト　　<AP パッケージ名>_start.bat
AP パッケージ終了スクリプト　　<AP パッケージ名>_stop.bat
スクリプトは戻り値として正常終了時に 0、異常終了時には 0 以外を返すようにしてください。

2.2 コマンドの実行

-f オプションに AP パッケージ制御ファイル名、-c オプションに実施したい操作を指定します。
-c オプションで指定できる操作とその動作の概要は以下のとおりです。

-c での操作	説明
start	Pcheckコマンドの起動とAPパッケージの起動 (①)
stop	APパッケージの停止と Pcheckコマンドの終了 (②)
restart	APパッケージの再起動とPcheckコマンドの再起動 (③)
start monitor	Padminコマンドによる監視の再開 (④)
stop monitor	Padminコマンドによる監視の停止 (⑤)
restart monitor	Padmin コマンドによる、AP パッケージのプロセス情報再読み込みと監視の再開 (⑥)

① 以下のコマンドを実行し、AP パッケージと Pcheck コマンドを起動します。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c start

② 以下のコマンドを実行し、AP パッケージと Pcheck コマンドを終了します。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c stop

③ 以下のコマンドを実行し、AP パッケージと Pcheck コマンドを再起動します。

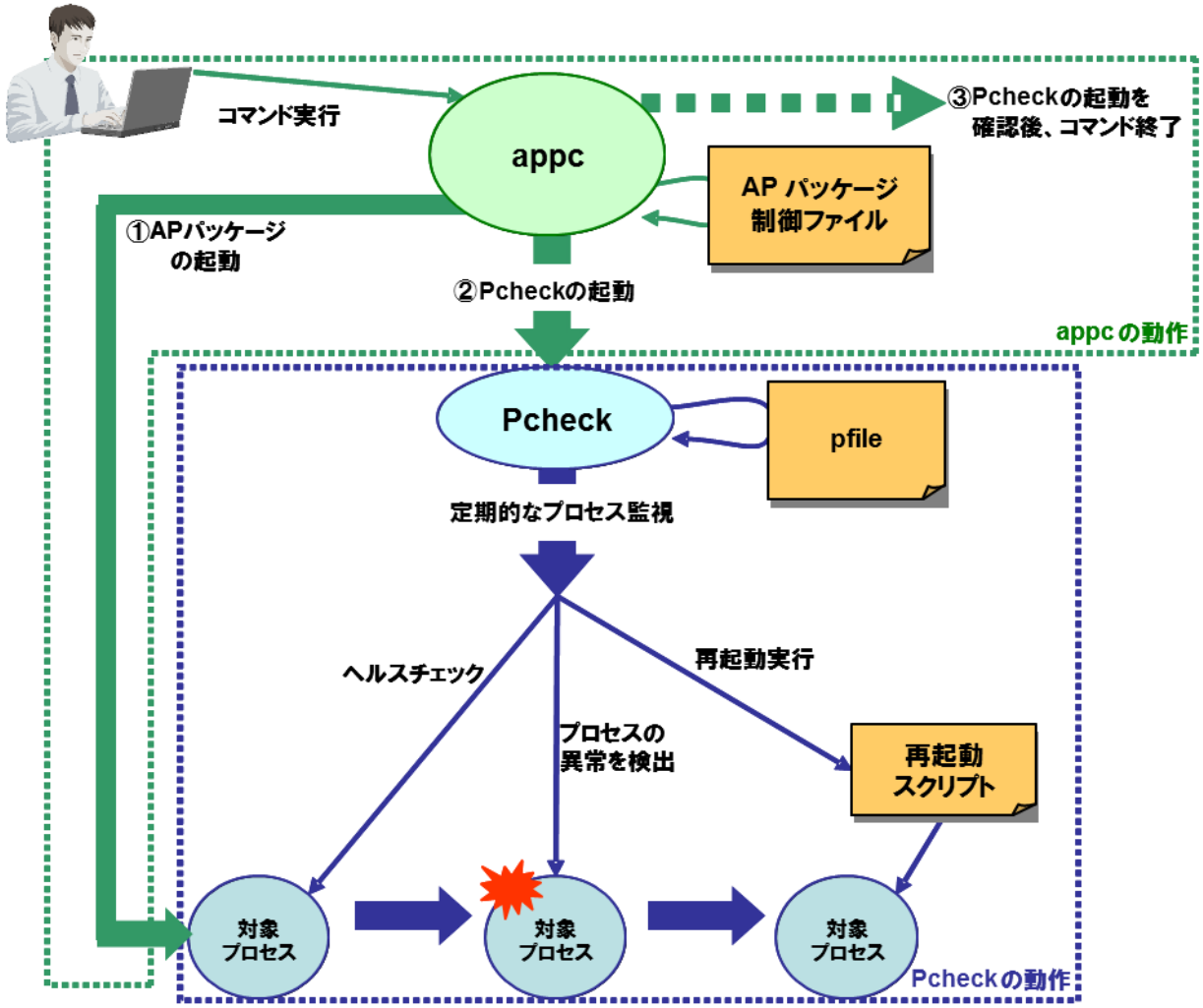
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c restart

④　以下のコマンドを実行し、Pcheck コマンドによる AP パッケージの監視を再開します。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c start monitor

⑤　以下のコマンドを実行し、Pcheck コマンドによる AP パッケージの監視を停止します。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c stop monitor

⑥　以下のコマンドを実行し、Padmin コマンドによる、AP パッケージのプロセス情報
再読み込み後、監視を再開します。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c restart monitor

【動作イメージ：APパッケージプロセスと Pcheck を一括起動する場合】



3 設定ファイルについて

3.1 AP パッケージ制御ファイルについて

(1) ファイルの配置
AP パッケージ制御ファイルは以下のディレクトリで管理されます。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥conf

(2) サンプルファイルの配置
AP パッケージ制御ファイルのサンプルファイル(pspkgconfig_sample)を以下に用意しています。
【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥conf¥pspkgconfig_sample
本ファイルをコピーし、カスタマイズすることで、AP パッケージ制御ファイルとして
利用できます。
コピーする際、作成する AP パッケージ制御ファイル名は以下の形式にしてください。
pspkg_<任意の文字列>.conf
(注意)サンプルファイルをそのまま利用することはできませんので、ファイルを別名でコピーした後
必ずカスタマイズを行ってください。

(3) AP パッケージ制御ファイルの設定
AP パッケージ制御ファイルの各パラメーターの意味と設定する内容について、
以下に説明します。

PS_PACKAGE_NAME(指定必須)
本ファイルで制御する AP パッケージの名前を指定します。
システムで一意となる名前を、64 バイト以内で指定してください。
PS_PACKAGE_NAME に指定できるのは英数字と
'_'(アンダースコアー)です。

PFILE_NAME(指定必須)
本ファイルで制御する Pcheck コマンドが読み込む pfile を
200 バイト以内の絶対パスで指定します。
ほかの appc コマンドと重複して同じ pfile を指定しないように
してください。

PCHECK_NAME(任意指定)
本ファイルで制御する Pcheck コマンドを 63 バイト以内の絶対パスで
指定します。
本パラメーターを省略した場合、デフォルトの値 (【インストールフォルダー】
¥HA¥¥ProcessSaver¥bin¥Pcheck)が設定されます。

START_SCRIPT_NAME(指定必須)
本ファイルで制御する AP パッケージを起動するスクリプトを 1023 バイト
以内の絶対パスで指定してください。
複数のスクリプトを指定することはできません。
※ スクリプト名は <AP パッケージ名>_start.bat を推奨します。
※ 指定するスクリプトは、戻り値として正常終了時に 0、異常終了時に
0 以外を返却するよう設定してください。

START_SCRIPT_TIMEOUT(任意指定)

appc コマンドで AP パッケージを起動する際、AP パッケージを
起動するスクリプト(*START_SCRIPT_NAME* で指定したスクリプト)の
終了を待つ最大時間を秒数で指定します。
スクリプトが本パラメーターで指定した秒数を経過しても終了しない場合、appc コマンドはスクリプトの実行を中止します。
本パラメーターを省略した場合、デフォルトの値(300(秒))が設定されます。
本パラメーターに指定できるのは、*10 秒 ～ 3600 秒(1 時間)*の範囲の数値です。

MONITOR_WAIT_TIME(任意指定)

appc コマンドで、-c start 制御対象の AP パッケージと Pcheck コマンドを起動する場合に、AP パッケージ起動スクリプトが終了した後、Pcheck コマンドで監視を開始するまで待ち合わせる時間を秒数で指定します。
Pcheck コマンドによる AP パッケージの監視を、AP パッケージ
起動スクリプト終了直後に開始したくない場合は本パラメーターを指定してください。
本パラメーターの指定は AP パッケージ起動スクリプト内で、AP パッケージをバックグラウンド起動しているような場合に効果があります。
本パラメーターを省略した場合、デフォルトの値(0(秒))が設定されます。
本パラメーターに指定できるのは、*0 秒 ～ 86400 秒(1 日)*の範囲の数値です。

STOP_SCRIPT_NAME(指定必須)

本ファイルで制御する AP パッケージを停止するスクリプトを 1023 バイト
以内の絶対パスで指定してください。
複数のスクリプトを指定することはできません。
※ スクリプト名は <AP パッケージ名>_stop.bat を推奨します。
※ 指定するスクリプトは、戻り値として正常終了時に 0、異常終了時に
0 以外を返却するよう設定してください。

STOP_SCRIPT_TIMEOUT(任意指定)

appc コマンドで AP パッケージを停止する際、AP パッケージを
停止するスクリプト(*STOP_SCRIPT_NAME* で指定したスクリプト)の
終了を待つ最大時間を秒数で指定します。
スクリプトが本パラメーターで指定した秒数を経過しても終了しない場合、
appc コマンドはスクリプトを実行したまま終了します。
本パラメーターを省略した場合、デフォルトの値(300(秒))が設定されます。
本パラメーターに指定できるのは、*10 秒 ～ 3600 秒(1 時間)*の範囲の数値です。

(4) AP パッケージ制御ファイルのサンプルファイル(pspkgconfig_sample)

サンプルファイル(pspkgconfig_sample)のイメージを以下に示します。

★ マークがついているものは、指定必須のパラメーターですので必ず指定してください。

```
##        Copyright (c) 2011 NEC Corporation                    ##
##        NEC CONFIDENTIAL AND PROPRIETARY                      ##
##        All rights reserved by NEC Corporation.               ##
##        This program must be used solely for the purpose for  ##
##        which it was furnished by NEC Corporation.  No part   ##
##        of this program may be reproduced or disclosed to     ##
##        others, in any form, without the prior written        ##
##        permission of NEC Corporation.  Use of copyright      ##
##        notice does not evidence publication of the program.  ##

# pspkg_XXX.conf(ProcessSaver APPC Configuration)

# "PS_PACKAGE_NAME" is the name to identify the package.
# Valid value for PS_PACKAGE_NAME:
#   Any name consists of only alphanumeric characters.
#   Maximum length is 64 characters.
#   This name must be unique within system.
PS_PACKAGE_NAME             sample_package1 ★

# "PFILE_NAME" is the name to identify the pfile.
# Valid value for PFILE_NAME:
#   Absolute path for the pfile must be specified.
PFILE_NAME                  C:¥Program Files (x86)¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥pfile_spooler ★

# "PCHECK_NAME"is the name to identify pcheck.
# This parameter is optional and default value will be set when omitted.
# Valid value for PCHECK_NAME:
#   Absolute path for the pcheck command must be specified
#   when the path or pcheck name has been changed.
#PCHECK_NAME                C:¥Program Files (x86)¥HA¥ProcessSaver¥bin¥Pcheck.exe

# "START_SCRIPT_NAME" is the script name which starts a package.
# Valid value for START_SCRIPT_NAME:
#   Absolute path for the start script must be specified.
#   Only single script can be specified,
#   and maximum length of the path is 1023 characters.
START_SCRIPT_NAME       C:¥Program Files (x86)¥HA¥PSPKG¥conf¥sample_package1_start.bat ★
```

```
# "START_SCRIPT_TIMEOUT" is the number of seconds which the package
# can take to start.
# If the start script has not completed in specified seconds,
# start script will be quit executing.
# This parameter is optional and default value will be set when omitted.
# Valid value for START_SCRIPT_TIMEOUT:
#    Any numerical string within following range.
#    minimum = 10, maximum = 3600(1hour), default = 300
#START_SCRIPT_TIMEOUT          300

# "MONITOR_WAIT_TIME" is the number of seconds which pcheck wait
# monitoring the package.
# This parameter is optional and default value will be set when omitted;
# pcheck will monitor the package right after the start script is completed.
# Valid value for MONITOR_WAIT_TIME:
#    Any numerical string within following range.
#    minimum = 0, maximum = 86400(1day), default = 0
#MONITOR_WAIT_TIME                0

# "STOP_SCRIPT_NAME" is the script name which stops a package.
# Valid value for STOP_SCRIPT_NAME:
#    Absolute path for the stop script must be specified.
#    Only single script can be specified,
#    and maximum length of the path is 1023 characters.
STOP_SCRIPT_NAME              C:¥Program Files (x86)¥HA¥PSPKG¥conf¥sample_package1_stop.bat ★

# "STOP_SCRIPT_TIMEOUT" is the number of seconds which the package
# can take to stop.
# If the stop script has not completed in specified seconds,
# stop script will be quit executing.
# This parameter is optional and default value will be set when omitted.
# Valid value for STOP_SCRIPT_TIMEOUT:
#    Any numerical string within following range.
#    minimum = 10, maximum = 3600(1hour), default = 300
#STOP_SCRIPT_TIMEOUT          300
```

4 メッセージ

4.1 イベントログッセージ

（1） メッセージ

① appc のメッセージ

エラーレベル

- ***appc failed.***

  説明:appc コマンドが失敗しました。

  処置:同時に出力される他のメッセージの処置にしたがって対応してください。

- ***script execute failed.***

  説明:停止スクリプト、または起動スクリプトの実行に失敗しました。

  処置:停止スクリプト、または起動スクリプトが単体で実行できるか
  確認してください。単体で実行できる場合、以下の内容を確認してください。
  ・スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
  ・戻り値として正常終了時には 0、異常終了時には 0 以外を返すこと
  ・スクリプトがパッケージ制御ファイルの START_SCRIPT_TIMEOUT
  または、STOP_SCRIPT_TIMEOUT で指定した時間内に実行完了すること
  (注)本メッセージが出力された場合は、スクリプト内の付随した処理などが
  失敗している可能性がありますので、AP パッケージが意図した状態で
  あるか必ず確認してください。

- ***pcheck already started. pfile=[xxx]***

  説明:Pcheck はすでに起動しています。

  処置:現在の監視対象プロセス、Pcheck の監視状態を確認してください。

- ***pcheck start failed. pfile=[xxx]***

  説明:Pcheck の起動に失敗しました。

  処置:以下の内容を確認してください。
  ・pfile の設定に問題がないこと(イベントログメッセージに Pcheck のエラー
  メッセージが出力されているか確認してください)
  ・上記を確認、修正しても改善されない場合は、サポートセンターに
  連絡してください

- ***pcheck stopped.***

  説明:Pcheck が停止しています。

  処置:監視状態の変更は、Pcheck が起動していない状態では行えませんので、
  対象の Pcheck を起動してください。

4.2 コンソールメッセージ

(1) メッセージ

① appc のメッセージ

- ***[xxx] does not exist.***

  説明:内部で使用する定義ファイルが存在しませんでした。

  処置:障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

- ***[xxx] was illegal value(yyy).***

  説明:パラメーター[xxx]に指定できない値が指定されています。

  処置:マニュアルに記載されている制限内で設定を修正し、

  再度本コマンドを実行してください。

- ***[xxx] was larger than maximum value(yyy).***

  説明:パラメーター[xxx]に最大値より大きい値が指定されています。

  処置:マニュアルに記載されている制限内で設定を修正し、

  再度本コマンドを実行してください。

- ***[xxx] was smaller than minimum value(yyy).***

  説明:パラメーター[xxx]に最小値より小さい値が指定されています。

  処置:マニュアルに記載されている制限内で設定を修正し、

  再度本コマンドを実行してください。

- ***illegal option.***

  説明:不正なオプションが指定されています。

  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***-f option used twice.***

  説明:-f オプションが 2 回指定されています。

  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***illegal option. arg=-f***

  説明:-f オプションが不正です。

  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***filename length is too long. filename=[xxx]***

  説明:ファイル名が長すぎます。

  処置:マニュアルのリファレンスを参照し、ファイル名を見直してください。

- ***-c option used twice.***

  説明:-c オプションが 2 回指定されています。

  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***illegal option. arg=-c***

  説明:-c オプションが不正です。

  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***-t option used twice.***
  説明:-t オプションが 2 回指定されています。
  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***-L option used twice.***
  説明:-L オプションが 2 回指定されています。
  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***illegal option. arg=[xxx]***
  説明:不正なオプションが使用されています。
  処置:指定したオプションを確認してください。

- ***-f option or -c option are not specified.***
  説明:-f オプションまたは -c オプションが指定されていません。
  処置:-f オプションと -c オプションは必須オプションですので、
  必ず指定してください。

- ***directory cannot be specified for -L. filename=[xxx]***
  説明:-L オプションにディレクトリを指定することはできません。
  処置:-L オプションにはファイル名を絶対パスで指定してください。

- ***directory of tracefile specified with -L does not exist. filename=[xxx]***
  説明:-L オプションで指定したファイルのディレクトリが存在しません。
  処置:-L オプションで指定するファイルのディレクトリを作成後、
  再度コマンドを実行してください。

- ***configfile does not exist. filename=[xxx]***
  説明:AP パッケージ制御ファイルが存在しません。
  処置:-f オプションには存在する AP パッケージ制御ファイル名を
  絶対パスで指定してください。

- ***[xxx] was no value.***
  説明:パラメーター[xxx] に値が設定されていません。
  処置:パラメーター[xxx] は値の設定が必須ですので、マニュアルを参照の上
  有効な値を設定してください。

- ***illegal parameter([xxx]).***
  説明:パラメーター [xxx] が不正です。
  処置:AP パッケージ制御ファイルに不正なパラメーター[xxx]がありますので、
  設定内容を見直してください。

- ***[xxx] was empty.***
  説明:パラメーター [xxx] が設定されていません。
  処置:パラメーター [xxx]の指定は必須のため、設定してください。

- ***[xxx] does not exist.***

  説明:ファイル[xxx] が存在しません。

  処置:ファイルの種類に応じて、以下の内容を確認してください。

  Pcheck コマンドの場合、PCHECK_NAME に指定したコマンドが存在しており、実行権があること。

  pfile の場合、PFILE_NAME に指定した pfile が存在していること。

  START_SCRIPT_NAME または STOP_SCRIPT_NAME に指定したスクリプトの場合、指定したスクリプトが存在しており、実行権があること。

- ***directory cannot be specified for [xxx].***

  説明:パラメーター [xxx] にディレクトリを指定することはできません。

  処置:パラメーター [xxx] にはファイル名を絶対パスで指定してください。

- ***internal error.***

  説明:内部エラーが発生しました。

  処置:障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

※ 上記メッセージ中、"xxx,yyy" は不定を表します。

5 障害解析情報の採取

5.1 本機能の障害解析情報

本機能の運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順にしたがって情報採取を行ってください。

・ ProcessSaver 構成ファイル群
ProcessSaver の構成ファイル群を保存します。以下に示すディレクトリ配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥ProcessSaver

・ appc コマンド構成ファイル群
appc コマンドの構成ファイル群を保存します。以下に示すディレクトリ配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG

・ イベントログ
障害発生時のイベントログファイルを保存します。

【windir】¥System32¥winevt¥Logs¥Application.evtx
【windir】¥System32¥winevt¥Logs¥System.evtx

・ プロセス監視構成ファイル
Pcheck の構成ファイル(pfile、再起動スクリプト、リトライオーバースクリプトなど)
をすべて採取してください。

・ AP パッケージ起動スクリプトと AP パッケージ停止スクリプト
AP パッケージ制御ファイルに指定している AP パッケージ起動スクリプトと
AP パッケージ停止スクリプトを採取してください。

・ ホスト情報
ProcessSaver を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

- tasklist /V の実行結果
- tasklist /SVC の実行結果
- sc query state= all の実行結果

6 注意･制限事項

- appc コマンドで制御する Pcheck コマンドや Pcheck コマンドで指定する pfile の注意･制限事項について、あらかじめ『CLUSTERPRO MC ProcessSaver for Windows ユーザーズガイド』をご覧ください。

- appc コマンドは、複数同時に実行することはできません(指定する AP パッケージ制御ファイル 1 つにつき 1 つだけ実行可能です)。

- pfile に指定した再起動スクリプトの実行が 1 分以上かかる Pcheck コマンドは、正常に制御できない場合があります。appc コマンドで制御する Pcheck コマンドの再起動スクリプトが実行に 1 分以上要する場合、本機能は使用することができません。

- pfile の clear_cmd に指定したスクリプトの実行が 1 分以上かかる Pcheck コマンドは、正常に制御できない場合があります。appc コマンドで制御する Pcheck コマンドの clear_cmd に指定したスクリプトが実行に 1 分以上要する場合、本機能は使用することができません。

- appcexec コマンドは appc コマンドから呼び出される付属コマンドであり、単独で実行することはできません。

- appc コマンドの運用開始後 Pcheck 名(絶対パス)、pfile 名(絶対パス)を変更される場合、必ず AP パッケージ制御ファイルの PCHECK_NAME、PFILE_NAME パラメーターもあわせて変更してください。

- *AP パッケージ制御ファイルの START_SCRIPT_NAME と STOP_SCRIPT_NAME* に指定するスクリプトの戻り値として正常終了時には 0、異常終了時には 0 以外を返却するようにしてください。

7 リファレンス

名称

appc - AP パッケージ制御コマンド

構文

appc -f *config_filename* -c *option [-t] [-L tracefile]*
appc -h

機能説明

AP パッケージと Pcheck コマンドの起動/停止/再起動を行います。

-f *config_filename*

AP パッケージと Pcheck コマンドの起動/停止/再起動に関する設定を定義した、
AP パッケージ制御ファイルを指定します。
ファイル名は 255 バイト以内の絶対パスで指定してください。
※AP パッケージ制御ファイルは【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥conf¥ 配下で
管理されます。
AP パッケージ制御ファイルの詳細については、本マニュアルの
「3.1 AP パッケージ制御ファイルについて」を参照してください。

-c *option*

option には実行する動作を指定します。
option に指定する動作の規定は以下のとおりです。

start
AP パッケージと AP パッケージの監視(Pcheck コマンド)の起動を
指定します。

stop
AP パッケージと AP パッケージの監視(Pcheck コマンド)の終了を
指定します。

restart
AP パッケージと AP パッケージの監視(Pcheck コマンド)の再起動を指定しま
す。

start monitor
AP パッケージの監視(Pcheck コマンド)の再開を指定します。

stop monitor
AP パッケージの監視(Pcheck コマンド)の停止を指定します。

restart monitor
Padmin コマンドによる、AP パッケージのプロセス情報再読み込みと、その後の
監視再開を指定します。

-t

デバッグモードを指定します。
本オプションを指定することにより、デバッグメッセージをコンソールに出力します。

-L *tracefile*

appc コマンドのトレースログを出力するファイルを指定します。
ファイル名は 255 バイト以内の絶対パスで指定してください。

-h

Usage を表示します。
ほかのオプションと同時に指定された場合、-h を優先します。

終了ステータス

成功すると 0 を返し、失敗すると 0 以外を返します。

使用例

AP パッケージ制御ファイルの設定に沿って、AP パッケージと Pcheck コマンドを起動します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c start

AP パッケージ制御ファイルの設定に沿って、AP パッケージと Pcheck コマンドを終了します。
また、その際デバッグメッセージをコンソールに出力します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c stop -t

AP パッケージ制御ファイルの設定に沿って、AP パッケージと Pcheck コマンドを再起動します。
また、その際 appc コマンドのログ出力先を【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥log¥appc_trace.log に変更します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c restart
-L【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG ¥log¥appc_trace.log

AP パッケージ制御ファイルの設定に沿って、Pcheck コマンドによる AP パッケージの監視を再開します。
また、その際デバッグメッセージをコンソールに出力します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c start monitor -t

AP パッケージ制御ファイルの設定に沿って、Pcheck コマンドによる AP パッケージの監視を停止します。
また、その際 appc コマンドのログ出力先を【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥log¥appc_trace.log に変更します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c stop monitor
-L【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥log¥appc_trace.log

Padmin コマンドによる、AP パッケージのプロセス情報再読み込み後、監視を再開します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -f <AP パッケージ制御ファイル> -c restart monitor

appc コマンドの Usage をコンソールに出力します。

【インストールフォルダー】¥HA¥PSPKG¥bin¥appc -h

関連項目

Pcheck, Padmin

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 2.8 for Windows
ユーザーズガイド
（AP パッケージ運用管理機能）

2023 年 4 月 第 10 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番地 1 号
TEL (03) 3454-1111(代表)

© NEC Corporation 2023

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙